

米国 CPI コアの減速も依然FRBが安心できない水準

(06年11月消費者物価)

発表日：06年12月15日 (金)

～自動車部門での価格競争の激化により商品価格の下落幅拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価											
	コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア		
06/01	+0.7	(+4.0)	+0.20	(+2.1)	+5.0	+0.5	+0.5	+0.3	+1.8	+0.1	+0.2	+0.2
06/02	+0.1	(+3.6)	+0.15	(+2.1)	▲1.2	+0.2	+0.1	▲1.0	▲0.2	+0.5	▲0.1	+0.3
06/03	+0.4	(+3.4)	+0.34	(+2.1)	+1.3	+0.1	+0.2	+1.0	+0.9	+0.4	+0.3	+0.3
06/04	+0.6	(+3.5)	+0.29	(+2.3)	+3.9	+0.0	+0.1	+0.6	+2.4	+0.4	+0.1	+0.3
06/05	+0.4	(+4.2)	+0.29	(+2.4)	+2.4	+0.2	+0.3	+0.2	+1.5	+0.3	+0.1	+0.4
06/06	+0.2	(+4.3)	+0.29	(+2.6)	▲0.9	+0.3	+0.2	+0.0	▲0.2	+0.3	+0.1	+0.4
06/07	+0.4	(+4.1)	+0.19	(+2.7)	+2.9	+0.2	+0.3	▲1.2	+1.6	+0.2	▲0.1	+0.4
06/08	+0.2	(+3.8)	+0.24	(+2.8)	+0.3	+0.3	+0.2	+0.9	+0.2	+0.4	+0.2	+0.2
06/09	▲0.5	(+2.1)	+0.24	(+2.9)	▲7.2	+0.4	+0.3	+0.6	▲4.1	+0.3	▲0.1	+0.3
06/10	▲0.5	(+1.3)	+0.10	(+2.7)	▲7.0	+0.3	▲0.0	▲0.7	▲3.1	+0.3	▲0.3	+0.3
06/11	+0.0	(+2.0)	+0.05	(+2.6)	▲0.2	▲0.1	+0.4	▲0.3	▲0.9	+0.2	▲0.4	+0.2

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

CPIは前月比0.0%と市場予想を下回った

06年11月の消費者物価(総合)は、コア物価の鈍化、食品価格の下落によって前月比+0.0%と市場予想の同+0.2%を下回った。エネルギー価格が同▲0.2% (同▲7.0%) とマイナス幅を縮小したものの、食品価格が同▲0.1% (前月同+0.3%) と下落した。エネルギーでは、ガス・電力が同+1.2% (同▲2.5%) と上昇に転じ、燃料油が同0.0% (同▲5.0%)、ガソリン価格が同▲1.6% (同▲11.1%) と下落幅を縮小した。

CPI コアは前月比+0.0%と市場予想を下回った

エネルギー・食品価格を除く消費者物価(コア)は、前月比+0.0%と市場予想の同+0.2%を下回った。コア物価は2ヵ月連続で前月比+0.2%を下回る伸びとなっておりインフレ加速が回避されている(小数点第3位までみると、11月+0.048%、10月+0.096%、9月+0.242%、8月+0.242%、7月同+0.194%、6月同+0.292%、5月同+0.293%、4月同+0.294%、3月同+0.344%)。景気の減速に伴って物価上昇圧力が減退しているものの、物価の上昇ペース鈍化は緩やかなものにとどまっている。

サービスコアの伸び率が鈍化し、商品コアの下落幅が拡大

CPI コアは、生産者物価や輸入物価の影響を受ける商品価格(除くエネルギー・食品)が3分の1を占め、それらの影響を受け難いサービス価格(除くエネルギー)が3分の2を占めている。11月の商品コアは、自動車の低下により下落幅が拡大した。一方、サービスコアは、輸送サービスの下落によって鈍化した。

11月の商品価格(除くエネルギー・食品)は前月比▲0.4%とマイナス幅が拡大した。衣料品は同▲0.3% (同▲0.7%) と下落幅が縮小した。一方、新車が同▲0.7% (同▲0.1%)、中古車・トラックが同▲1.4% (前月同▲1.2%) とマイナス幅が拡大したこと

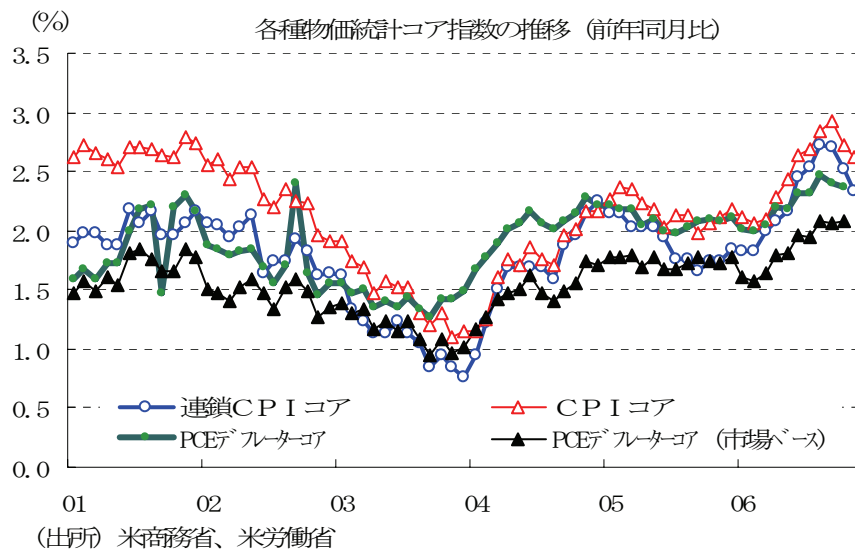
から、自動車全体でも同▲0.8%（同▲0.3%）と下落した。

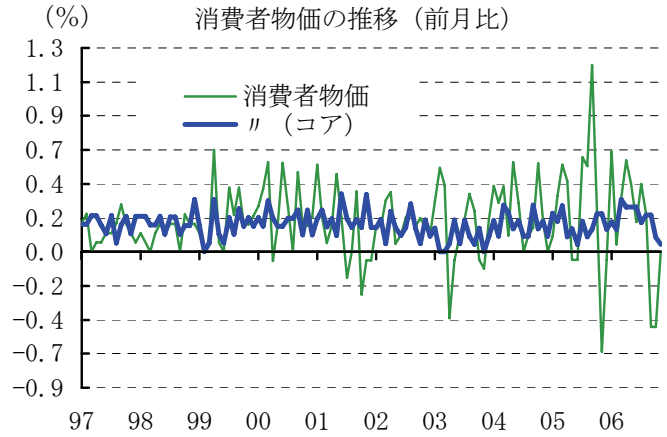
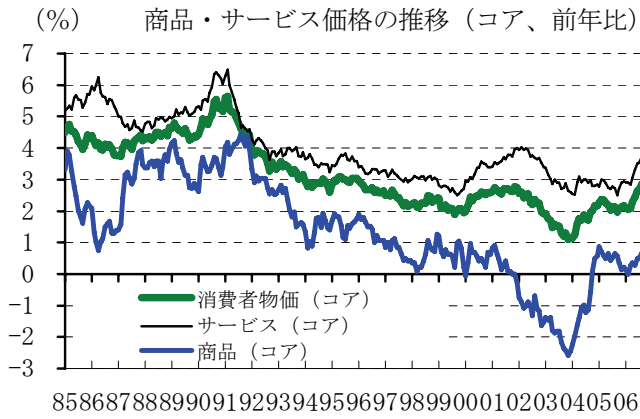
さらに、サービス価格（除くエネルギー）は、前月比+0.2%（前月同+0.3%）と小幅鈍化した。ホテルなどの宿泊費が同+1.0%（同▲0.5%）と上昇に転じ、賃貸料が同+0.4%（同+0.4%）と高い伸びを維持した。一方、輸送サービスが同▲0.5%（同+0.0%）と下落し、帰属家賃が同+0.3%（同+0.4%）、教育費が同+0.5%（+0.6%）、医療サービスが同+0.3%（同+0.4%）と鈍化した。

連鎖CPIコアは 前年比+2.3%に鈍化

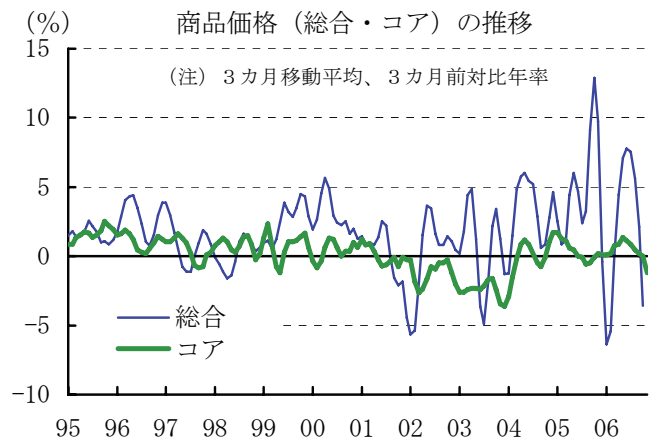
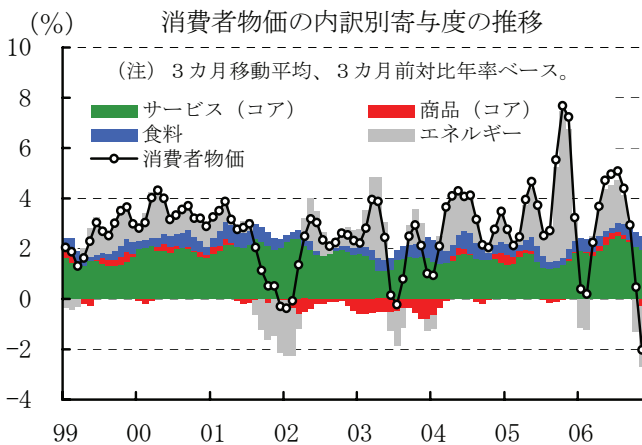
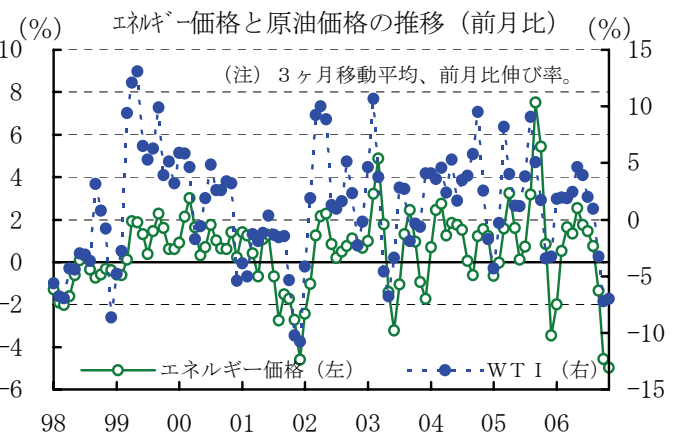
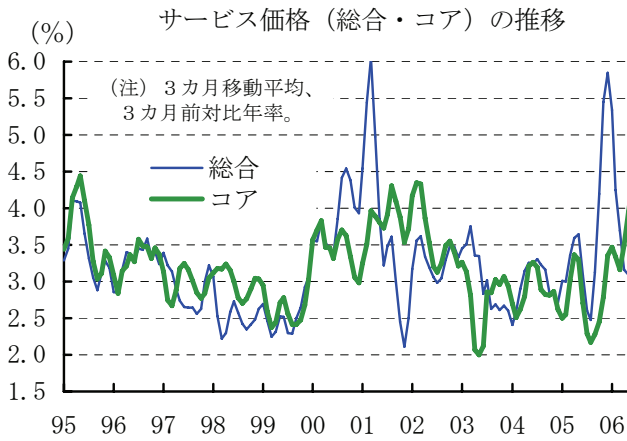
各種消費者物価統計の前年比での動向では、総合が+2.0%（前月+1.3%）と加速した。一方、コアは+2.6%（同+2.7%）と低下したものの、前年比+1.5%~2.5%の物価安定レンジを上回った。

より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアは+2.3%（同+2.5%）と鈍化した。また、連鎖指数よりも実態を示し、FRBが物価情勢を判断するために重視している個人消費コアデフレーターは10月に+2.4%（前月+2.4%）と、FRBが物価の安定と考えている前年比+1%~+2%を上回っている。





(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。